

施策 No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	学校教育課	主管課長名	園田 哲也
2-1	施策名	学校教育の充実	関係課	教育指導課、生涯学習課、給食センター、幼稚園		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
					見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値
的	園児 児童, 生徒(幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校の児童生徒)	①児童数(小学生・義務教育学校前期生)	人	見込値	2,002	1,977	1,908	1,782	1,718	
					実績値	1,998	1,976	1,898	1,792	
		②生徒数(中学生・義務教育学校後期生)	人	見込値	1,143	1,087	1,063	1,039	1,042	
					実績値	1,133	1,064	1,055	993	
		③幼稚園児数	人	見込値	51	36	20	0	0	
					実績値	52	32	9	0	0
	施策の意図	学力・心・体の調和の取れた人材が育まれている。	①学校が楽しいと思う児童生徒の割合	%	目標値	小:95.0% 中:86.0%	小:96.0% 中:88.0%	小:96.0% 中:88.0%	小:97.0% 中:90.0%	小:97.0% 中:90.0%
						実績値	小:99.0% 中:84.8%	小:92.7% 中:87.1%	小:89.9% 中:78.3%	
			②学力診断テスト結果(県平均正答率との比較)	%	目標値	小:+13.0% 中:+9.0%	小:+14.0% 中:+9.0%	小:+14.0% 中:+9.0%	小:+15.0% 中:+10.0%	小:+15.0% 中:+10.0%
						実績値	小:+14.7% 中:+1.9%	小:+11.4% 中:+5.1%	小:+18.1% 中:+2.9%	
			③体力テスト結果(県平均との比較)	%	目標値	小:+9.0% 中:+6.0%	小:+9.0% 中:+7.0%	小:+9.0% 中:+7.0%	小:+10.0% 中:+8.0%	小:+10.0% 中:+8.0%
						実績値	小:+11.3% 中:+5.2%	小:+8.9% 中:+1.3%	小:+9.9% 中:+0.6%	
④適正規模を維持できていない学校数			校	目標値	9	8	8	6	6	
					実績値	9	8	8		
成果指標設定の考え方	○学力診断テストの結果により「学力」を、体力テストの結果により「体」を、学校が楽しいと思うことは「心」をそれぞれ判断し、「学力・体力・心」の調和の取れた人材が育まれているかどうか判断する。									
成果指標の把握方法と算定式等	①学校が楽しいと思う児童生徒の割合は、各種調査・アンケートより求める。②学力診断テスト結果(県平均正答率との比較)は、県学力診断のためのテスト結果より求める。③体力テスト結果(県平均との比較)は、体力・運動能力調査結果より求める。④適正規模を維持できていない学校数は、1学年1クラスしかない学校数。※児童生徒数は各年5月1現在の数値									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①学校が楽しいと思う児童生徒の割合は、前年度からは低下したが、小・義(前期)学校で平成29年度のみ突出して高く、時系列に見るとほぼ横ばいである、中・義(後期)学校では、直近3年は向上傾向であったが、令和元年度は低下(87.1%から78.3%へ)した。 ②学力診断テスト結果は、小・義(前期)学校で向上している(+11.4%から+18.1%へ)、中・義(後期)学校は前年度に比べ、やや低下している(+5.1%から+2.9%へ)。 ③②について、平成30年度から義務教育学校が1校開校したが、今後は、義務教育学校の成果を検証しつつ、他中学校区の小中連携を進めることで児童生徒の生活・学習面での改善を図っていく。 ④体力テスト結果は、小・義(前期)学校でやや向上傾向(+8.9%から+9.9%へ)であるが、中・義(後期)学校では平成30年度から続けて低下(H29:+5.2%, H30:+1.3, R1:+0.6)している。今後、各学校の体育の授業で運動量を確保するとともに、授業内容の工夫・改善を図っていく。 ⑤適正規模を維持できていない学校数は、小学校8校となっている。 ①から⑤全体を通して、小・義(前期)学校では向上している項目も多い。中・義(後期)学校では全体的に見ると横ばい状態になっていたり低下したりしている項目もある。小・義(前期)学校での学びを中・義(後期)学校へつなげていく小中一貫連携教育をさらに推進していく必要がある。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①学校が楽しいと思う児童生徒の割合は小・義(前期)学校で目標値96.0%に対し89.9%で下回り、中・義(後期)学校は目標値88.0%に対し78.3%で下回っている。 ②学力診断テスト結果は、小・義(前期)学校で目標値+14.0%に対し+18.1%、中・義(後期)学校は目標値+9.0%に対し+2.9%と下回っている。 ③体力テスト結果は、小・義(前期)学校で目標値+9.0%に対し+9.9%で若干上回り、中・義(後期)学校で目標値+7.0%に対し+0.6%で下回っている。 ④適正規模を維持できていない学校数は、目標値どおりとなる。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
○令和元年度は、教育体制及び環境の充実に、重点をおいて事業を進めてきた。貢献度の高かった事業は下記のとおりである。 ・「3 外国語指導助手招致事業(JET-ALT)」は、JETプログラムを活用して、外国語授業に携わる外国語指導助手(ALT)を海外から招致して、学校や教育委員会に配属し、外国語教育の充実を図る事業である。 ・「33 ICT技術を活用した英会話交流事業」は、平成29年度から開始し、友好都市のフィリピン国バコール市と市内小学校をスカイプ等で繋ぎ、英会話交流を行う事業である。令和元年度は新規1校、継続2校。	○「3 外国語指導助手招致事業(JET-ALT)」は、令和元年度に2人の外国語指導助手(ALT)を招致し、外国語教育の充実を図っていく。 ○「33 ICT技術を活用した英会話交流事業」は、今年度3校目となる両引小での開通となる。学校が固定しないよう、計画的に市内の児童が経験できるよう進めていく必要がある。